

北米市場

2008年度、北米市場の売上高は、主力品の伸長、武田



TPNA社社長 本田 信司

ファーマシューティカルズ・ノースアメリカ株式会社 (TPNA社)とTAPファーマシューティカル・プロダクツ株式会社 (TAP社)の統合、ミレニウム社の融合※などにより6,316億円(対前年36.3%増)となりました。

※ミレニウム社の多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」の販売状況については19ページをご参照ください。

「アクトス」を中心とする既存主力品の伸長

TPNA社の売上高は、TAP社との統合の影響もあり、5,074百万ドル(対前年63.0%増)となり、米国トップ15社にランクインする製薬企業への飛躍を遂げました。タケダは、糖尿病治療剤「アクトス(一般名:ピオグリタゾン塩酸塩)」の販売を通じて、米国市場の糖尿病治療のリーディングカンパニーとしての確固たる地位を築き上げています。2008年度の「アクトス」ファミリー

の売上高は、同剤とメトホルミンの合剤である「アクトプラスメット」の寄与などにより、2,998百万ドル(対前年7.6%増)となりました。

米国スキャンボ社が創製・開発した慢性突発性便秘症治療剤「アミティーザ(一般名:ルビプロストン)」については、2006年の上市以来、TPNA社と同社のパートナーシップにより、積極的な販売活動を展開しています。2008年度の売上高は208百万ドル(対前年21.7%増)となり、消化器疾患領域においても大幅な伸長を続けています。

新製品「カピデックス」「ユーロリック」の製品価値 早期最大化の推進

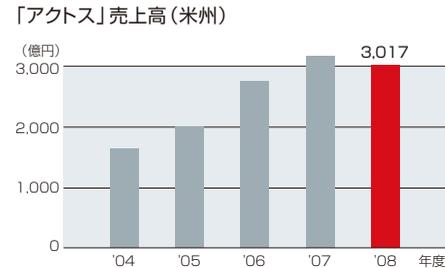
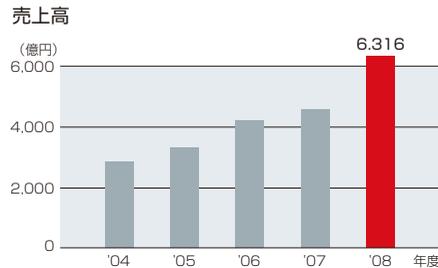
タケダは、2009年2月に逆流性食道炎治療剤「カピデックス(一般名:デクスランソプラゾール)」、2009年3月に痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック(一般名:フェブキソスタット)」の発売を開始、新薬を相次いで米国市場に送り出し、新しい治療オプションを患者さんに提供しています。「カピデックス」は、プロトンポンプ阻害剤で初めて、時間



武田ファーマシューティカルズ・ノースアメリカ株式会社 (左から) Julia Clark/RJ Lasek/Joe Criscione

Marketing

北米市場の業績



差をにおいて2段階で薬剤が放出される製剤設計を実現しました。胃酸分泌を強力かつ持続的に抑制し、全米に約1,900万人いるとされる胃食道逆流症の患者さんに新たな治療オプションを提供します。タケダの国際戦略製品の一角を担ってきた消化性潰瘍治療剤「プレバシド(一般名:ランソプラゾール)」の後継品と位置付けており、豊富な販売ノウハウと開業医市場における優れたネットワークを駆使して、既存品からの切り替えを促進していきます。

痛風・高尿酸血症で苦しむ患者さんは全米で500万人以上いるといわれています。帝人ファーマ社が創製した「ユーロリック」は、約40年ぶりにこの市場に参入する、まさに待ち望まれていた期待の新薬です。同剤は、痛風の原因となる尿酸生成合成酵素を阻害することにより、優れた尿酸低下効果を発揮します。また、軽度から中等度の腎機能障害や肝機能障害を有する患者さんでも、投与量を調節することなく服用できます。



逆流性食道炎治療剤「カピデックス」 痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック」

世界第8位の規模を有する「カナダ市場」へ進出

2009年4月、北米地域におけるプレゼンス向上を目指して設立した武田カナダ株式会社(TCA社)が稼働しました。カナダ市場は過去3年間、毎年15~20%の成長を続けており、市場規模は15~20億米ドルに達しています。4つの重点疾患領域における製品を順次投入していくとともに、2009年末までに医薬品の販売許可申請をカナダ厚生省に対して行う予定です。

Stakeholder's Voice

「カピデックス」は、独創的な新薬です。胃食道逆流症の患者さんの症状を抑制し、食事の際の投与要件の問題にも対処できます。タケダは、プロトンポンプ阻害薬の効果を生かし、新しい二段階遅延放出(DDR)技術を活用することで酸分泌抑制効果を高めました。DDR技術によって、「カピデックス」は高い血中濃度を持続することができます。技術革新で既存薬を改良するこのような取り組みは、医療ニーズに対するタケダの真摯な姿勢を示す好例だと思います。「カピデックス」の効果は、臨床データからも明らかです。私の患者さんのほとんどが24時間、胸焼けから解放されています。全レベルのびらん性食道炎にも効果があり、「プレバシド」同様の安全性、忍容性を示しています。患者さんの評価は非常に良く、初めて全症状が改善したという方もいます。臨床に携わる私の同僚も、「カピデックス」とDDR技術に強い感銘を受けています。

ヴァージニア大学保健科学センター 医学部名誉教授 David Peura



欧州市場



英国武田株式会社（左から）Ev Penn/Kavita Patel/Peter Hope

欧州の販売拠点



【販売統括会社】

- ① 武田ファーマシューティカルズ・ヨーロッパ株式会社（英国）

【販売拠点】

- ② ラボラトワール・タケダ株式会社（フランス）
- ③ タケダ・ファルマ有限公司（ドイツ）
- ④ タケダ・ファルマ・オーストリア有限公司
- ⑤ タケダ・ファルマ・スイス株式会社
- ⑥ タケダ・イタリア・ファルマチェウティチ株式会社
- ⑦ 英国武田株式会社
- ⑧ 武田スペイン株式会社
- ⑨ 武田ポルトガル株式会社

欧州における自社進出地域の拡大

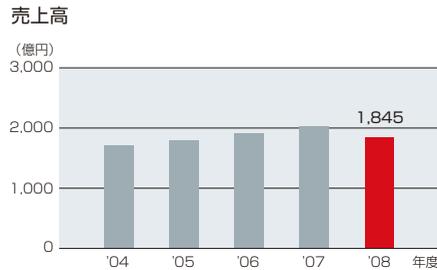
欧州では、武田ファーマシューティカルズ・ヨーロッパ株式会社（TPEU社）の包括的な管理・支援のもと、各国の販売子会社（TES：Takeda European Subsidiaries）が販売活動を行っています。フランス、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、英国の6社に加えて、2008年に設立した武田スペイン株式会社と武田ポルトガル株式会社が自社販売活動を本格的に開始しています。また、アイルランドにおいては、これまで英国武田株式会社が一部の地域で限定的に行っていた販売活動を、同国全土に拡大しています。これによって、TESのネットワークは合計9カ国へと拡がり、西欧諸国の大部分をカバーすることになりました。また、ベネルクス3国、北欧諸国、トルコ、ロシアなどへの進出についても取り組みを進めています。



TPEU社社長 Erich Brunn

Marketing

欧州市場の業績



主力品「アクトス」「プロプレス」の伸長

2008年度、欧州市場においては、主力品の糖尿病治療剤「アクトス*（一般名:ピオグリタゾン塩酸塩）」、高血圧症治療剤「プロプレス**（一般名:カンデサルタン シレキセチル）」が引き続き伸長しましたが、「タケロン***（一般名:ランソプラゾール）」が一部の国における物質特許切れの影響で減収となり、売上高全体は1,845億円(対前年9.4%減)となりました。

「プロプレス」については、規制強化が進むとともに他社との競争が激化しているなか、好調に推移しています。「アクトス」の売上高は328億円(対前年1%増)となりました。今後も、新たな効能や剤型の開発に努め、糖尿病領域でのプレゼンスの拡大を図っていきます。

*「グルステン」の製品名でも販売されています。
**「アミアス」、「ケンゼン」などの製品名で販売されています。
***「オガスト」、「ランソックス」、「アゴプトン」などの製品名で販売されています。

新たな製品ポートフォリオによる事業強化

タケダでは、欧州市場における新製品の上市に向けた取り組みを加速しています。専門医向けの製品として、フリードライヒ失調症治療薬「イデベノン」、腎性貧血・癌性貧血治療薬「ヘマタイト」、炎症性腸疾患治療薬「MLN0002」、非小細胞肺癌治療薬「AMG706」などの開発を推進し、開業医向けの製品として、高用量「プロプレス」と利尿剤との合剤などの上市も予定しています。今後、これまで主に開業医を対象としていた事業・販売体制を専門医と開業医の両者を対象とした「ハイブリッドモデル」に段階的に移行していきます。また、2009年6月には、米国IDMファーマ社を株式公開買付けにより子会社化し、欧州において希少疾患用医薬品の指定を受けている非転移性骨肉腫治療剤「メバクト」を獲得しました。タケダは、自社進出市場の拡大および癌治療薬も含めた製品ポートフォリオの拡充によって、欧州における事業基盤をさらに強固なものとしていきます。

Stakeholder's Voice

骨肉腫のおそろしさは、患者とその家族でなければ真に理解することが難しいものです。私の息子は17歳で骨肉腫と診断され、23歳でこの世を去りました。それ以来、私はBCRT（骨肉腫研究基金）を通じて、この病気に対する人々の理解を高め、患者の転帰を改善させる必要性を訴えてきました。英国における骨肉腫の若年層患者の5年以上生存率はわずか5%であり、20年以上改善されていません。だからこそ、有効な新しい治療方法の研究を進めることが求められています。2009年6月の骨肉腫啓蒙週間では、骨肉腫患者とその家族の勇気ある物語をメディアを通じて前面に取り上げ、深刻な治療のアンメットメディカルニーズ（いまだ有効な治療方法がない医療ニーズ）があること、そして、より良い治療方法が求められていることをTPEU社と共同で紹介しました。BCRTは、今後もタケダとともに骨肉腫に対する闘いを続けていきます。

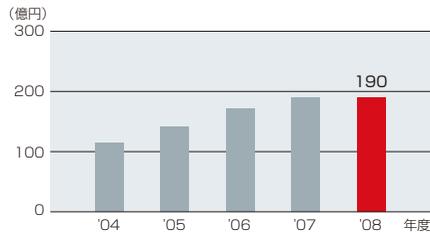
BCRT 理事長 Mike Francis



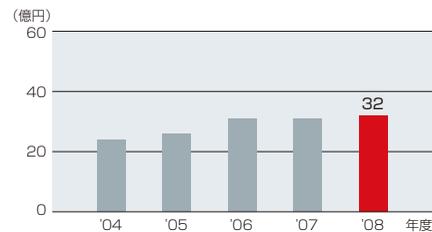
Marketing

アジア市場の業績

医療用医薬品 売上高(仕入品を除く)



「ランソプラゾール」売上高



アジア市場



【販売統括会社】

- ① 武田ファーマシューティカルズ・アジア株式会社 (シンガポール)

【販売拠点】

- ② 台湾武田株式会社
- ③ タイ武田株式会社
- ④ フィリピン武田株式会社
- ⑤ インドネシア武田株式会社
- ⑥ 天津武田薬品有限公司

成長市場 アジアにおける事業基盤の強化

タケダは、2008年9月に、アジア地域における販売統括会社として、シンガポールに武田ファーマシューティカルズ・アジア株式会社 (TPAsia社) を設立しました。TPAsia社では、アジア5カ国 (台湾、タイ、フィリピン、インドネシア、中国) の販売子会社を包括的に管理し、

中長期的視点に立った最適な販売・マーケティング戦略を推進します。

また、同月、アジア・オセアニア地域における臨床開発拠点としてシンガポールに武田クリニカル・リサーチ・シンガポール株式会社 (TCRS社) を設立しました。TPAsia社とTCRS社との緊密な連携によって、アジア地域の市場ニーズに即した新薬の販売許可取得を実現するとともに、製品付加価値の最大化を図っていきます。2008年度のアジア市場の医療用医薬品 売上高 (仕入品を除く) は、円高の影響もあり、対前年1%減の190億円となりました。アジアにおける現在のタケダのプレゼンスは高いとはいえませんが、既存主力品を伸長させ、新製品を最適な方法で上市し、販売地域を拡大していくことで、生活習慣病領域、癌領域におけるアジアのリーディングカンパニーを目指します。



武田ファーマシューティカルズ・アジア株式会社 (TPAsia社)

アジアの医薬品市場は急成長を続けており、2012年には世界の医薬品市場の12%を占めるといわれています。高齢化に伴い、慢性疾患、癌の患者さんが増加しており、生活習慣病領域、癌領域を重点領域と位置付けるタケダの製品ポートフォリオに合致しています。TPAsia社は、優れた医薬品の提供を通じて、アジア地域の医療の発展に貢献します。

TPAsia社 社長 Stefan Ziegler

Relationship With Our Stakeholders

Based on Takeda-ism

ステークホルダーとの関係

「経済的責任」と「社会的責任」を両輪として、
世界の人々に貢献し続けること。
それこそが、タケダの存在意義であると考えます。

50 CSRの基本方針／CSR推進体制／2009年度のCSR活動

社会との関係

- 52 特集 アジアにおける保健医療アクセス(アジアにおける活動)
- 54 タケダの企業市民活動
- 56 米国における活動
- 58 フランス／ドイツにおける活動
- 60 イタリア／英国における活動
- 62 日本における活動／その他の活動

環境との関係

- 64 特集 生物多様性／水資源問題への取り組み
- 66 特集 気候変動への取り組み
- 68 環境に関する基本原則／環境安全管理体制
- 69 方針と実績／武田薬品グループ環境防災業務基準／レスポンシブル・ケア活動
- 70 環境リスク低減／環境防災監査／防災
- 72 廃棄物削減
- 73 化学物質排出量の削減／大気・水質の保全
- 74 事業活動に伴う環境負荷／環境会計
- 75 環境コミュニケーション

お取引先との関係

- 76 特集 サプライチェーン・マネジメント

従業員との関係

- 80 特集 「世界的製薬企業」を担う人材の育成
- 86 Stakeholders' Voices
タケダイズムの体現者たち



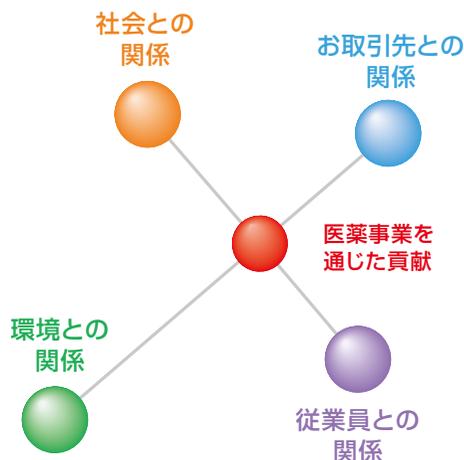
「いのち」に関わる企業の社会的責任とは何かについて常に考え、誠実に行動します。

CSRの基本方針

タケダが考えるCSRの根幹とは、経営理念である「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」ことにあります。この考え方に則り、企業として、誠実に事業経営を進めてきたからこそ、228年の長きにわたり存続し、社会とともに発展することができたと考えます。その一方、事業のグローバル化に伴い、企業市民の視点がこれまで以上に重要になると認識しています。グローバルな社会的課題や地域社会の課題にも目を向けることにより、患者さんやその家族をはじめとしたステークホルダーに対する取り組み、さらには、医学・薬学の発展に向けた基盤整備にも関わっていくことが重要であると考えます。

CSR推進体制

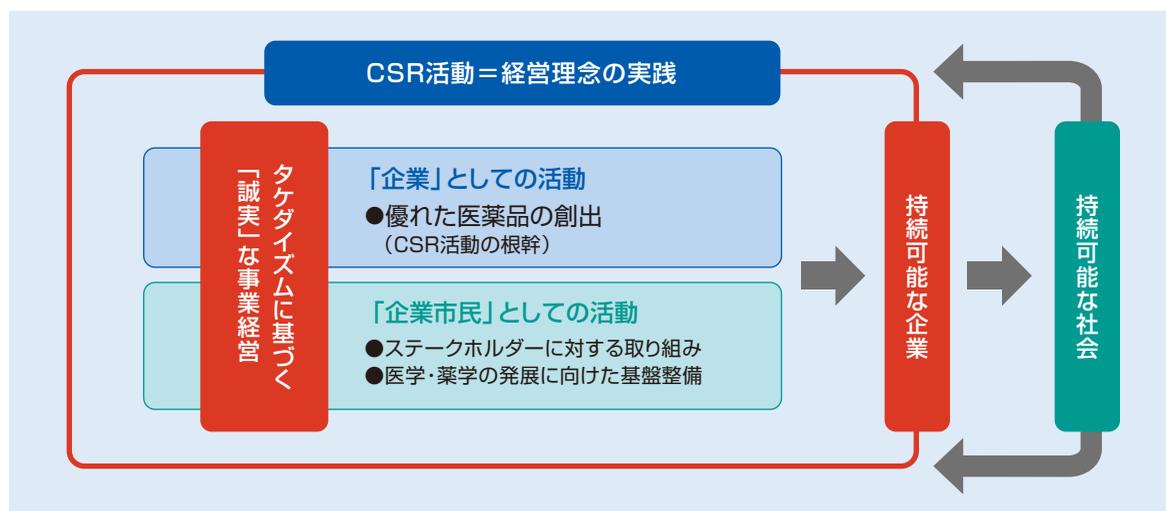
タケダは、2009年4月より、CSR活動を推進する専門組織「CSR・コーポレートブランディング」をコーポレート・コミュニケーション部内に新設しました。本組織は、本業の医薬品の品質・安全性のほか、社会、環境、人権、調達などのグローバル・ガバナンスを担当する社内の責任部署と密接に情報交換をし、それぞれの部署が日常的に実践しているCSR活動を側面から支援することで、会社全体の活動を底上げする役割を担っています。



CSRに関わる重要案件については、ビジネス案件と同様に、それぞれの責任部署が必要に応じて、取締役会や業務執行会議に報告、提案する体制をとっています。

2009年度のCSR活動

タケダは、世界的製薬企業に相応しい企業活動と企業市民活動を実践するため、2009年3月に、国連グローバル・コンパクト（GC）に参加しました。これを機に、2009年度のCSRに関する取り組みについては、タケダが従来から主要な分野として掲げている「社会との関係」「環境との関係」「お取引先との関係」「従業員との関係」と国連GCの10原則との関連性を明確にする形で、具体的な内容を策定しました。取り組みの進捗については、来年度のアニュアルレポートで開示を進めていきます。



CSR活動 2009年度の取り組み

分野	GC10原則	取り組み内容
社会との関係	原則1	治療や予防に関する幅広い情報提供
		アジア途上国における保健医療アクセス向上
	原則2	次世代における医薬の発展を担う人材の育成・支援
		医薬の発展に資する幅広い分野への助成
		NGO/NPOとのパートナーシップ構築
		タケダグループ内におけるボランティア活動の現状把握
環境との関係	原則7	環境・防災に関する方針の実施
		武田薬品環境自主行動計画の策定
	原則8	タケダグループ環境マネジメントシステム(T-EMS)の構築
		気候変動における中期目標の策定
	原則9	化学物質管理に関するガイドラインの策定
		水資源利用に関する中期目標の策定
お取引先との関係	原則1 ↓ 原則10	偽造医薬品問題に対するイニシアチブの発揮
		購買基本方針の徹底
		お取引先におけるCSRへの取り組み状況の確認
		グリーン調達推進
		サプライチェーン管理に関する他社ベンチマーク
従業員との関係	原則1 ↓ 原則6	グローバル人事ポリシーの徹底
		Takeda Leadership Instituteの継続実施
		Takeda Global Awardsの継続実施
		グローバル従業員サーベイの実施(隔年)
		メンタルヘルスケアの強化
		働きやすい職場づくりの推進



タケダのCSR活動の詳細については、「CSR Data Book」(PDF版)を参照ください。

タケダは、2006年度より、アニュアルレポートにCSR活動などの非財務情報を取り入れた統合レポートを発行し、ステークホルダーの方々への積極的な情報開示に努めています。

さらなる説明責任を果たすために、アニュアルレポートに掲載した情報に、より詳細な情報を加えて再編集した「CSR Data Book」(PDF版)をご用意しています。

タケダのホームページから、ダウンロードしていただけます。<http://www.takeda.co.jp/csr/>

特集 アジアにおける保健医療アクセス

国際NGO プランとパートナーシップを結び、途上国の子どもたちの健康状態の改善をサポートします。

【アジア】における活動



【タイにおける活動】
若年層のHIV/AIDS感染予防



【フィリピンにおける活動】
子どもの医療支援



【インドネシアにおける活動】
屋外での排泄禁止促進



【中国における活動】
子どもの栄養改善



52 国際NGO「プラン・ジャパン」（左から）寺田聡子さん／膳 三絵さん／武市尚子さん

タケダ-Plan保健医療アクセス・プログラム



途上国の子どもたちを支援する「財団法人日本フォスター・プラン協会」（プラン・ジャパン）は、世界65カ国で活動している、国連に公認・登録された国際NGO プランの日本における事務局です。

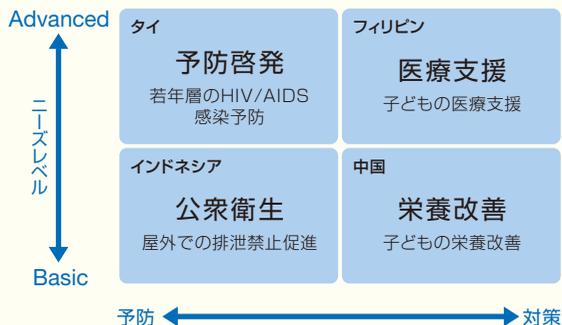
タケダは、プラン・ジャパンとパートナーシップを結び、2009年8月に「タケダ-Plan保健医療アクセス・プログラム」を立ち上げました。

途上国の子どもたちの健康状態を改善・維持するためには、公衆衛生、栄養改善、医療支援、予防啓発など、それぞれの地域ごとのニーズに合わせた対応が必要となります。そのような認識のもと、本プログラムでは、中国、インドネシア、フィリピン、タイのアジア4カ国において、子どもたちの保健医療サービスへのアクセスを改善するきめ細かい取り組みを推進していきます。

なお、本プログラムのもとで実施される4つの個別プロジェクトは、2000年に国連で採択された「ミレニアム開発目標」（MDGs）^{*}に対応しています。

^{*}世界共通の問題に地球規模で取り組むため、2015年までに達成すべき目標として設定されました。全8項目には、極度の貧困と飢餓の撲滅、乳幼児死亡率の削減、初等教育の完全普及などが含まれています。

各国の課題に応じたプロジェクトの選択



Relationship With Society

タケダは、「世界的製薬企業」の実現を目指す06-10中期計画の目標達成に向けて、アジア市場においても、積極的な事業展開を行っています。本プログラムでは、医薬事業を通じて結びつきを深めている中国、インドネシア、フィリピン、タイをプログラム実施国としました。今後、長期的な視点に立って、子どもたちの健やかな成長を継続的に支援していきます。



タイの子どもたちが描いたAIDSの啓発ビジュアル

Stakeholder's Voice

途上国の子どもたちの健やかな成長を促すプランの活動と、御社の人々の生命や健康を見つめ社会に貢献するという理念が合致し、「タケダ・Plan保健医療アクセス・プログラム」を通じて両者が複数年にわたりパートナーシップを組むことはたいへん意義深いことと存じます。

このたびは、アジアの4カ国においてそれぞれの地域が抱える代表的な問題に正面から取り組みます。病気予防や具体的な改善対策など、「保健医療へのアクセス」という共通テーマのもと、子どもや青少年を中心に、地域の人々とこれまでに実績と信頼を築いてきたプランが共にプロジェクトを進めます。

これらプロジェクトは途上国における保健医療環境の改善を目指したもので、「国連ミレニアム開発目標」(MDGs)に貢献します。

財団法人 日本フォスター・プラン協会 (プラン・ジャパン)

専務理事・事務局長 鶴見 和雄

各国のプロジェクトの詳細

	インドネシア	中国	フィリピン	タイ
プロジェクト名	屋外での排泄禁止を促進するプロジェクト	子どもの栄養改善プロジェクト	子どもの医療支援プロジェクト	若年層のHIV/AIDS感染拡大予防プロジェクト
プロジェクト実施地域	東ヌサテンガラ州ルンバタ島のルンバタ活動地域	陝西省佳県(ジアシアン活動地域)、陝西省西郷県(シーシアン活動地域)	ノースサマール、ウェストサマール、イーストサマール、サザンレイテ、セブの5活動地域	スリサケット県のスリサケット活動地域
プロジェクト目的	住民の衛生習慣や不衛生な環境を改善し、多くの人々が安全な水を利用できること、子どもたちの下痢性疾患の減少による乳幼児死亡率の低下を目指します。	発育過程にある子どもたちの深刻な栄養不足を改善し、健やかな体と心の成長および学習能力の向上を目指します。	障がいがある子どもや、手術を必要とする重篤な病気の子どもへ、十分な医療サービスを提供することを目指します。	若年層の子どもたちに、性教育をはじめとした意識啓発活動を行い、HIV/AIDSの蔓延を防止して、健やかな成長を目指します。
ミレニアム開発目標(MDGs)への対応	[目標4] 乳幼児死亡率の削減 [目標7] 環境の持続可能性確保	[目標1] 極度の貧困と飢餓の撲滅 [目標2] 初等教育の完全普及の達成	[目標2] 初等教育の完全普及の達成 [目標8] 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進	[目標6] HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
プロジェクトのインパクト	1年間に3~5村で実施。約3,000~5,000人が意識啓発活動に参加し、より良い衛生習慣を習得。	4校に通う6~18歳の生徒4,000人の栄養状態が改善され、正しい衛生および栄養に関する知識と習慣を習得。	1年間に25人~150人が必要な医療支援を受益。 ※必要な医療支援の程度により、1年間の受益者人数が変動する可能性があります。	16校1,500人および退学した若者1,500人が意識啓発活動に参加し、正しい性知識を習得。

タケダの知見を活用した取り組みを推進し、 経営理念の実践に努めます。

企業市民活動に関する基本的な考え方

タケダは「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」を経営理念として事業を推進しています。患者さんに優れた医薬品を提供することが活動の中心ではありますが、人々の健康と医療の未来に貢献するアプローチは、市場（ビジネス）を通じた医薬品の提供だけに限りません。経営理念を実践するためのもう一つのアプローチ、それが企業市民活動です。特に、製薬は、人々の「いのち」に関わる事業です。患者さんやご家族などからの期待は切実なものであることを認識しています。タケダは、企業市民の立場からも、ヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を社会に対して有効に活用することで、経営理念の実践に努めていきたいと考えます。

企業市民活動の方向性

タケダの企業市民活動は、本業であるくすりづくりの知見が活かせる「保健医療」分野が中心になります。グローバルな観点とローカルな観点を考えながら、活動を推し進め、本社では、グローバル社会が抱える課題に、また、海外グループ会社は、それぞれのローカルな課題に取り組んでいます。世界各国で実践されている主な活動事例は、本社が収集し、グループ会社間でベストプラクティスの共有を図ります。活動の推進に当たっては、以下のフレームワークを活用し、個々の活動の意味付けや、活動全体の方向性とバランスを確認しています。

1. 患者さんをはじめとするステークホルダーに対する取り組み

a. 情報提供	治療や予防に関する幅広い情報提供
b. エンパワメント	患者さんや家族の方の「生きる力」を応援する取り組み
c. 医薬品提供	地域のニーズに応じた医薬品や医療サービスの提供
d. 研究開発	アンメットメディカルニーズへの取り組み

2. 医学・薬学の発展に向けた基盤整備

a. 研究助成	医薬の発展に資する幅広い分野への研究助成
b. 人材育成	医薬の発展を担う人材の育成・支援
c. 継承資産の活用	医学・薬学研究に資する継承資産の有効活用
d. アドボカシー活動	CSR推進イニシアチブへの参画

Relationship With Society

武田科学振興財団

「武田科学振興財団」は、1963年、タケダからの寄付金を基金として設立されました。その事業は「陰徳陽報」[※]の精神のもと地道に継続され、年々拡充されています。現在の主要事業と2008年度実績は以下の通りです。

- ①科学技術に関する研究機関および科学技術の研究に従事する者に対する奨励金の贈呈（322件、15億1,260万円）、②外国人留学生に対する研究の補助（43名1億158万円）、③科学技術に関する注目すべき研究業績に関する褒賞（武田医学賞）（藤原哲郎博士 岩手医科大学名誉教授、宮園浩平博士 東京大学教授、山中伸弥博士 京都大学教授）、④科学技術の振興に関する出版物の刊行、⑤図書資料館「杏雨書屋」における東洋医書その他図書資料の保管、整理、公開、⑥その他科学技術の研究を助成振興するために必要な事業。

なお、⑤の「杏雨書屋」は、国宝、重要文化財に指定されている書物も多数擁している貴重な資料館です。その



「解体新書」
（安永3年・1774年）

蔵書は、1923年の関東大震災を機に、日本・中国の本草医書の散逸を防ぐためにタケダが本格的に収集を始めた書籍が元となっており、1978年に「杏雨書屋」として開館しました。

[※]人知れず善行を積み、必ず良い報いとなって現れてくる、という考え方。

尚志社

「尚志社」は、1923年に五代目長兵衛が私費を投じて苦学生に学費支援をはじめたことにそのルーツがあります。この後、その遺志が受け継がれ、1960年、育英事業を目的とする財団法人「尚志社」に発展しました。財団から提供される奨学金は基本的に返還する必要がなく、卒業後の就職先も各人の意思により自由であり、制約されません。本事業の開始から2008年度までに奨学金の提供を受けた学生の数は、541名に及びます。

ボランティア活動

社内Web「フィランネット・タケダ」(PINT)では、従業員に向けて、地区ごとのボランティア活動の情報を発信しています。PINT Osaka自主企画の「奈良公園周辺清掃活動」もその一つで、清掃をしながら古都の歴史を楽しむ活動を実施しました。PINTでは、タケダの社会貢献活動、NPOの紹介などの情報も併せて発信し、社会のニーズと従業員の「想い」をつなげるメディアとしての役割を果たしていきます。



PINT Osaka 「奈良公園周辺清掃活動」

ホームページでのお問い合わせ対応について

タケダでは、社外からのご意見、ご質問をE-mailでお受けする「問い合わせ窓口」をホームページ上に開設しています。2008年度のお問い合わせ件数は、日本語サイト755件（対前年35件増）、英語サイト1,686件（同394件増）でした。

ホームページでのお問い合わせ件数



心身ともに健康で、明るく豊かな未来へ。
誠実な活動を、グローバルに展開しています。

【米国】における活動

低所得者の居住区で建物や住宅を修復する NPO「Rebuilding Together」に協力しています

2008年8月に実施した「第6回地域貢献Day」に、武田ファーマシューティカルズ・ノースアメリカ株式会社（TPNA社）と武田グローバル研究開発センター株式会社（TGRD社）から、300人を超える従業員が参加しました。これは、新学期が始まる前に、従業員が地域の学校を修復する活動です。今回は、住宅や地域施設を修復するNPO「Rebuilding Together」とともに、48の教室、13の事務室、2つの玄関のペンキ塗りや、運動場の植樹、屋外学習センターの設置を行いました。TPNA社・TGRD社は、「Rebuilding Together」と協力して、2003年からこの活動を実施しており、以来、シカゴ地域の6つの学校と4,000人を超える生徒の皆さんを対象に、6,700時間以上のボランティア活動を行っています。



植樹をするTPNA社従業員

Stakeholder's Voice

TPNA社・TGRD社は、勉強のために清潔で美しい場所を提供することが、生徒たちの生活にも好影響を与えられることを、よく理解されています。タケダのボランティアの皆さんによる精力的な活動のおかげで、汚れた玄関、はげかけたペンキ、雑草だらけの屋外スペースが明るく心地よい色に塗り替えられ、屋外学習センターが設置できました。タケダの献身的な活動は、低所得者層の家族や地域の生活を元気づけたいという気持ちの現れだと思います。この充実した関係を、今後も続けていきたいと願っています。

Rebuilding Together Metro Chicago 事務局長
Wanda Ramirez



ペンキを塗って汚れた壁を修復するTPNA社従業員

Relationship With Society

癌患者さんへの想いを込めて 「千羽鶴プロジェクト」をスタートしました

ミレニアム社の使命は、科学技術、イノベーションを通じて、癌患者さんへ優れた医薬品をお届けすることです。

ミレニアム社では、癌患者さんへの責任を果たしたいという想いを、「千羽鶴」を通じて表現する取り組みを始めました。ロビーに展示している折り鶴の一羽一羽には、患者さん、従業員、医師、介護する方、そして癌との闘いを支援する人たちの願いが、手書きで記されています。皆さまの願いが折り込まれた千羽鶴は、現在も増え続けており、2009年に立ち上げたWebサイト「1000 cranes of hope.com」に写真で掲載していきます。



願いが折り込まれた千羽鶴

Stakeholder's Voice

私と妻は、「ミレニアム社の皆さんが、癌治療に関する最良の研究をしてくれれますように」という願いを、折り鶴に記しました。1992年に多発性骨髄腫と診断されて以来、私は、さまざまな治療を受けてきました。その結果、2人の息子たちの大学卒業、就職、結婚、そして2人のかわいい孫たちの誕生を一緒に祝うことができました。そのような素晴らしい体験ができたのは、進化し続ける治療のおかげだと思っています。逆境にあっても、前向きな姿勢と目的を持つことで、人は大きく変わることができるのです。

Jim Bond



(左から) Kathleen Bondさん、Jim Bondさん

コミュニティにおける「良き企業市民」として、ボランティア活動に取り組んでいます。

【フランス】における活動

希少疾患「フリードライヒ失調症」の患者さんと家族の方をサポートしています

ラボラトワール・タケダ株式会社 (LT社) と AFAF (仏フリードライヒ失調症協会) とは、患者さんや医療従事者に向けて、フリードライヒ失調症の啓発と情報提供に6年間にわたって共に取り組んできました。フリードライヒ失調症は遺伝性の希少疾患で、神経細胞の異常に伴い運動機能が衰退していく病気です。この病気は進行性で、患者さんは、発病後10年から20年で自力歩行ができなくなります。また、希少疾患であることから、患者さんや家族の自覚や理解が足りないこともしばしばあります。LT社ではボランティア活動も立ち上げており、オレンジ色のTシャツを着た従業員が、患者さんの食事や移動を介助し、2日間にわたる交流の時間を過ごしています。LT社では、今後も積極的にボランティア活動に取り組んでいきます。



患者さんとLT社従業員

Stakeholder's Voice

2006年のAFAFの年次総会期間中に、LT社からフリードライヒ失調症患者さんのお手伝いをするボランティア活動についての提案があり、LT社から多くの介護ボランティアが参加してくれました。ボランティアの皆さんは、患者さんにわかりやすいようにオレンジ色のTシャツを着ていることから、「Oranges」と呼ばれています。「Oranges」の存在は、患者さんや家族の方に、連帯感や優しさを与えてくれており、我々は心より感謝しています。

AFAF会長 Juliette Dieusaert



フリードライヒ失調症の患者さん、AFAFのスタッフの皆さんと、LT社従業員